2015年
10月号
カトリック笹丘教会
教会ニュース
福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」
小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

次の世代に伝えること

主任司祭　遠山満

私たちは、この一年、「信仰の伝達」をスローガンに掲げ、信仰生活を送って参りました。信仰の伝達という言葉を、皆さんは繰り返し聞かれてきたと思いますが、ここで今一度、私達が伝えようとしている信仰は、どのようなものなのか考えてみましょう。

私達が伝えようしている信仰、それは復活の信仰です。倒れても立ち上がることができる、という信仰です。私たちの人生の中には、様々な苦しみがあり、それによって私達は挫折を味わいます。仏教で言われる、人が味わう4つの大きな苦しみは、生病老死と言われます。生きているだけで、私達は様々な失敗や挫折を体験します。病気や老いることも、私たちにとって苦しみになります。死は、その中で最も大きな苦しみです。しかし私たちは、キリストと共に歩むなら、どんな状況に陥っても、再び立ち上がって生きる事が出来るようになります。大きな失敗や挫折を体験しても、キリストと共に歩もうとするなら、キリストが再び立ち上がる力を下さり、一緒に歩んで下さいます。どんなに大病を患っても、あるいはどんなに年老いても、キリストにより頼んで生きようとするなら、身体は不自由になっても、心は自由に、健やかに生きていくことが出来ます。私達は、「私を信じる者は、死んでも生きる」（ヨハネ 11・25）とイエス様が言われた復活の信仰を、身を持って生きることを通して、次の世代に復活の信仰を伝えて参りましょう。

私達が次の世代に伝えるべきもう一つの事は、愛の炎である聖霊、その方です。聖霊は、愛の炎です。イエス様が復活された時、弟子たちに向かって「聖霊を受けなさい」（ヨハネ 20・22）と言われました。聖霊を頂くことによって、私達は生きる情熱、人としての温かさ、赦しの心を頂けるようになります。聖霊のない所では、冷淡さや不和が蔓延します。私達が毎日の生活の中で聖霊に心を向け、聖霊を頂きながら生きていくことを通して、次の世代に聖霊を伝えて参りましょう。

また、今月はロザリオの月です。ロザリオを祈り、イエス様とマリア様の生涯を黙想しながら、身近な人たちの為に、また世界の為に祈って参りましょう。

カトリック笹丘教会　拡大信者会議事録

開催日時：2015年10月4日（日）１１：３０～１２：００
開催場所：信徒会館
司会：川原
書記：牧山

始めの祈り―聖母マリアへの祈り

１．敬老会には対象者の内21名の参加があった。欠席者には「ひよこ」を用意した。

２．倉庫は昨日設置完了。棚は未だ付けていない。新しい倉庫に何を入れるか話し合い、バザー用品、クリスマス用品など、用途で場所を分けてはどうかとの提案があった。信徒会館内の倉庫も整理する必要がある。１０／１１（日）１０時ミサ後に移動することとし、先ずはテントを新しい倉庫に入れることとした。

３．**緊急連絡網について**
世帯数は全部で３３９あった。この１カ月に６７件アンケートの返事が届いており、アンケート回答数は全部で１９６件になった。
連絡方法の希望内訳は、携帯メール６７件、パソコンメール１７件、ＦＡＸ２５件、固定電話４８件、携帯電話２６件、連絡不要１３件となっている。
回答が無かった方については基本的に緊急連絡網から外す方針だが、申告があれば加えることとする。

４．その他
召命の集い（１１月３日火曜日）の準備と参加の協力をお願いします。
笹丘小教区からは、模擬店としてカレー（３００円×１００食）と綿菓子を出店します。
収益については小教区に任せられているので一部は神学院へ寄付することを検討する。
１１月２３日月曜日は教区の日が予定されています。

この後、出席者で手分けして、班ごとにアンケートの回答を名簿に手書きで転記する作業を行った。

９月２７日　恒例の敬老会が２１名の出席で開かれました

敬老会に先立ち「病者の塗油」の秘跡を受け、魂の救いのためのお恵みと病気の苦しみに戦う力をいただきました。

ゲームも盛り上がりました

川上さんは元気です

元気に自己紹介

尾崎先生とファミリア合唱団

信仰のルーツ　コーナー

私の、初めてのキリスト教との出会いは５歳の時で、イエズス会による新設のカトリック幼稚園に入園したことでした。主の祈りを覚えたのもそのころです。園は小学校の隣りにあり、卒園後も、妹のお迎えを口実に、学校の帰りには幼稚園に行って、シスターのお手伝いをしたりして時間を過ごしました。

大学時代、エリザベート音大の先生に合唱指導をしていただいていていたこともあり、教会音楽に触れる機会が多く、深くは理解できないままにラテン語の歌をよく歌っていました。そこで夫との出会いもありました。

夫が泰星学園（今の上智福岡）に就職し、信者である先生方や、神父様との交流が増えました。最初の動機としては、西洋音楽の根っこにあるキリスト教のことをもっと深く知りたいということで、イエズス会の塩谷神父様にお願いし聖書講読が始まりました。信仰についてかたくなな私たちでしたが、辛抱強く受け入れていただき、その講座は８年近く続きました。

そんな中、親交の深かった船橋さんから笹丘教会で行われていたコーラスにさそわれ、笹丘教会の敷地に初めて足を踏み入れました。教会での結婚式やカトリックフェスティバルなどに参加し、そこでたくさんの信者の方にお会いしました。うまく表現できませんが、それは今までになかった、とても居心地の良い人的環境で、キリスト教を自分の人生のベースにしたいと願うようになり、初めて受洗への希望を自覚しました。

信仰について懐疑的だった夫はさておき、自分だけでも受洗したいと思い、塩谷神父様にお願いして、要理の勉強をすすめていましたが、教会への送り迎えをしてくれていた夫が、ある日、当時の教会の入り口にあった「重荷を負うものはみな私のもとに来なさい」というイエス様の像の前でしばらく立ち留まっていました。今でも理由はよくはわかりませんが、そのことがあった後、夫が要理の勉強に自分も出ると言い出し、改めて夫婦で受洗への道をスタートしました。９１年の秋にイエズス会の修道院にて二人で洗礼をうけました。多くの方からのいろいろな影響をうけたこともありますが、最後の一歩は神さまのお恵みだったと思っています。

受洗後２０数年を経て、教会を通して多くの方に出会うことができ、「いろいろな時」をささえていただき、充実した教会生活を過ごさせていただいています。夫との死別の時も、穏やかに迎えることができました。

様々な迷いがある人生で、神さまという、相談相手を持っていることは、とても心強く、いつもひとりではないと感じながら暮らしています。

（M．T）

編集後記

１０月３日、上智福岡主催の渡辺和子シスターの講演会を聴きに行った。お話はユーモアあり、でも時折毒舌あり本音もあり９０分があっという間だった。

心に残ったことをいくつか。

ミッションスクールの使命とは「人間として生まれてきた子供を一人格に育て上げること」。「真の人格と呼ばれるにふさわしい人とは”自分の頭で考え、自分の意思で選択し、選択した結果に対してきちんと最後まで責任をとる”人である」。「信仰とは持つものではなく、それを”生きる”もの」。

シスターのお母様は、大変厳しい方で、シスターが子どもの頃わがままは一切許されなかったそうだが、それは「これから出て行く社会はやさしいばかりのものではない、思うままにならないとき、苦労にあったときに、乗り越える力のある強い人間に育てたい」という母の愛情であったと思う――とも話された。
シスターが１８歳で洗礼を受けたあとも、お母様からは「それでもあなたはクリスチャン？」としばしば言葉や行動を辛辣に批判されたそうだが、そのおかげで常に「信仰は持つものではなく、それを生きなければならない」という原点に戻る戒めになったそうだ。

「それでもあなたはクリスチャン？」「あなたは”一人格”と呼ばれるにふさわしい？」　大きな課題をいただいて帰ってきた思いがする。　　(F.K)